

ひらいてむすんで

設計主旨

時代とともに消費ニーズや交通手段が変化し、それに伴い人も街も変わっていった。そうして抗いようのない時の流れに飲まれ、立ち並んでいた店は次第に閉店し空き家になり、賑わいを失ってしまった。

しかし、変化とは新たな出会いや生活をもたらすきっかけにもなる。商店街を変化に対応させるために先にカタチをつくってしまうのはどうだろうか。

近年、問題視されている空き家増加と地域コミュニティの希薄化の改善のため、放置されている空き家を解体、そこにアーケードと一体化した骨組みと壁を建て、駅の利用者や地元住民のための空間を開放する。

イベントを通じて訪問客に街の魅力を伝え、住みたい、働きたい人を迎え入れ、街全体の活性化を図る。

また、地域住民の憩いの場としても活用し、世代を超えた新たなコミュニティを生み出すことで、街の伝統や文化を若い世代へ継承する場をつくるのがねらいだ。

時が経って現存する店舗が空き家になると、新たに柱と壁を建て両サイドの建築物と繋ぎ、やがて一つになる。

隣り合う建築物同士の結びつき、人同士も結びつく。そうしてまた新たなコミュニティができ、商店街らしい賑わいを取り戻していく。

時代が流れ、消費者のニーズの変化とともに店舗の需要も変わり、既存のものが失われていくほど一体化する。

そして一つの大きなカタチとなった商店街の中で自在に形を変えながら時代とともに色々な用途にコンバージョンしていく。

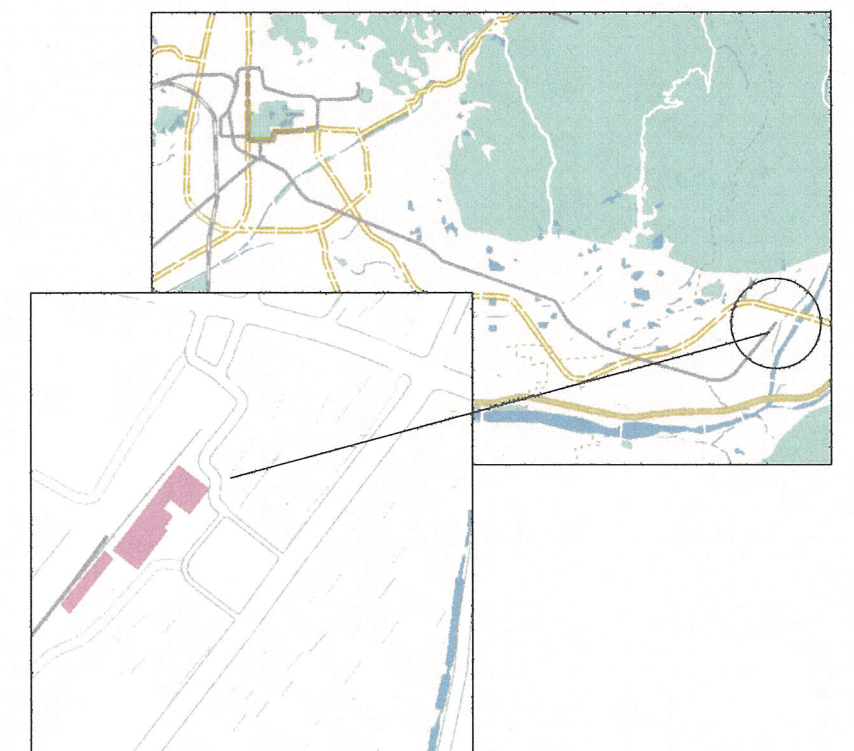
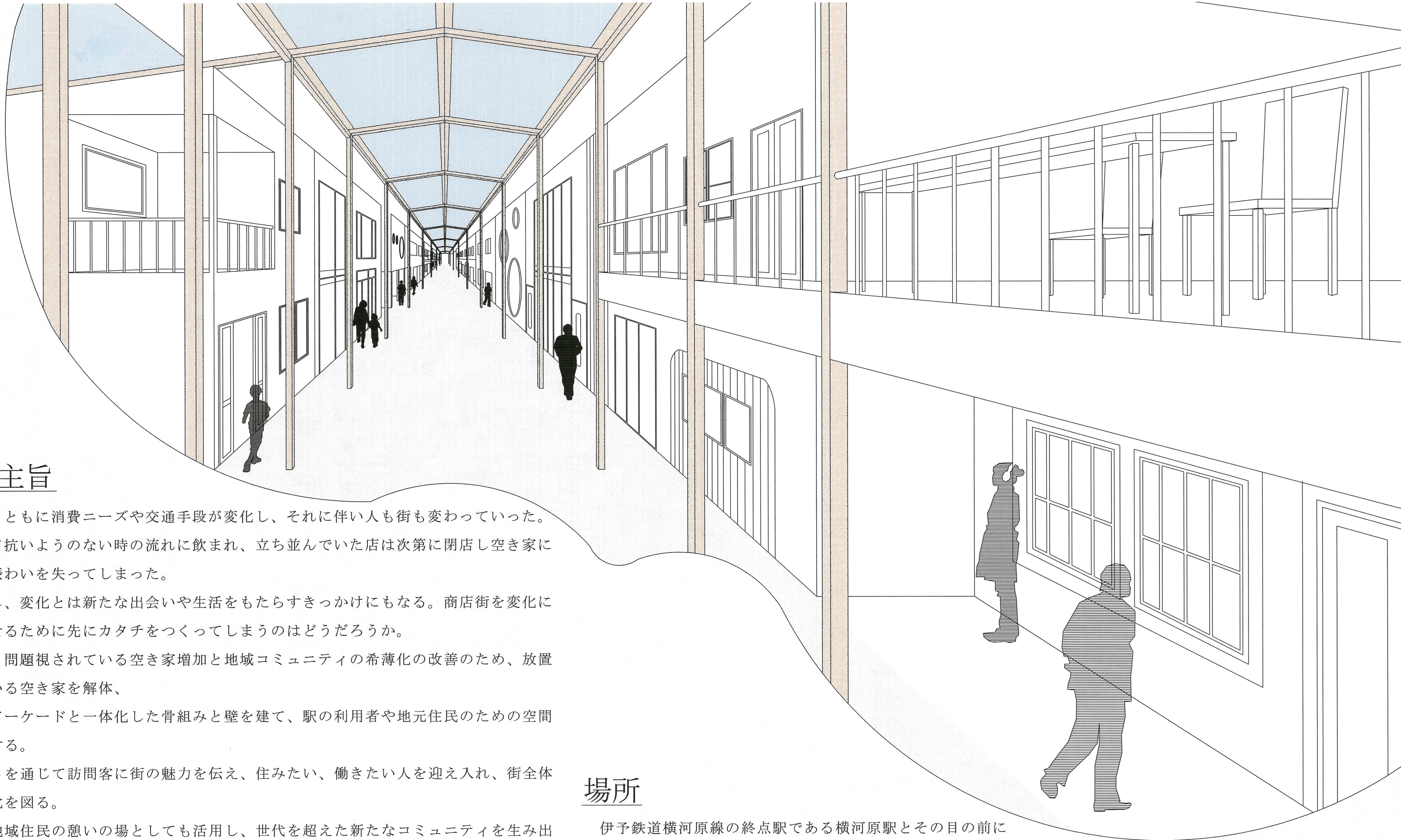
変化に対応し、需要と人のうつりかわりに順応し続ける商店街のカタチを提案したい。

場所

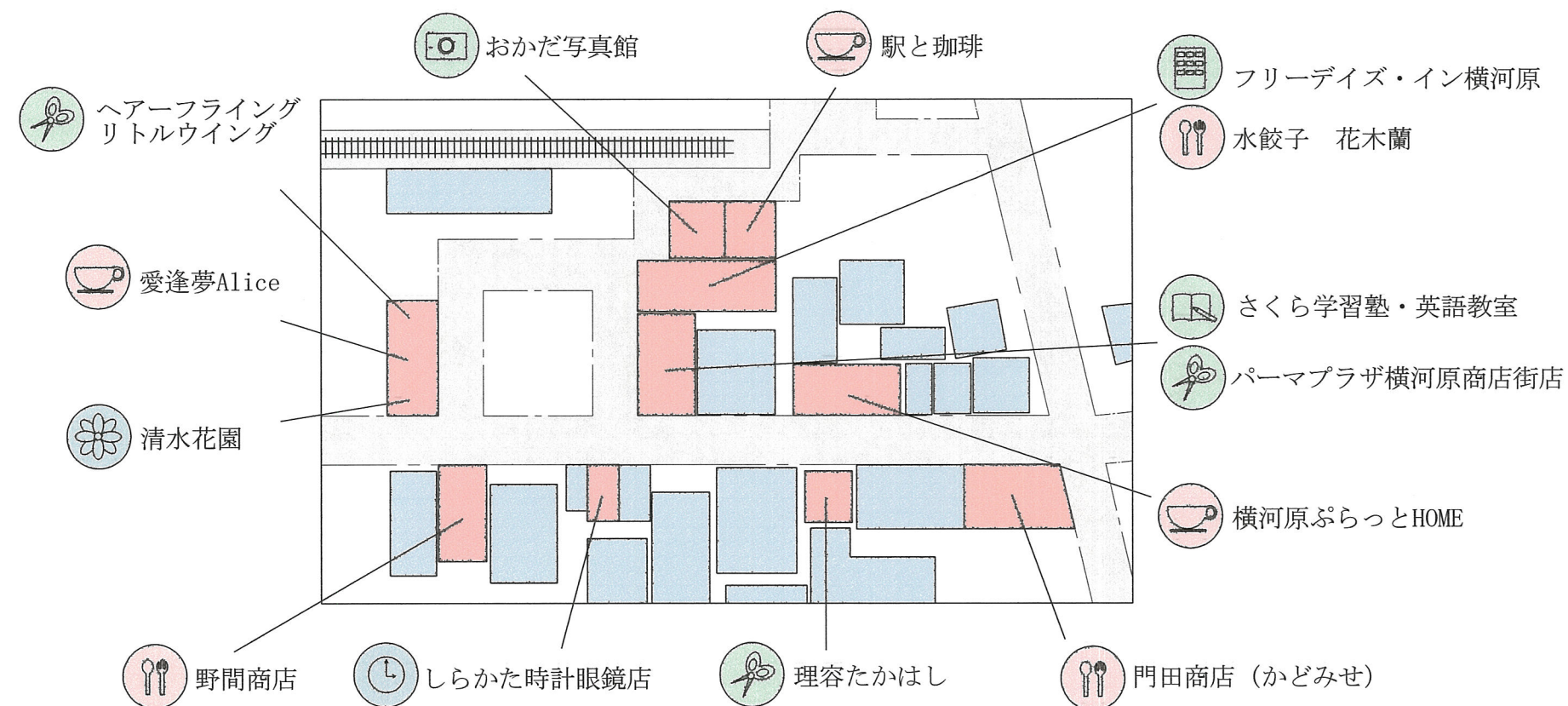
伊予鉄道横河原線の終点駅である横河原駅とその目の前にある商店街。かつては東予方面への窓口として栄え、商店や娯楽施設も立地していた。地域住民の暮らしを支え、地域外からの集客にも大きく貢献していた。

しかし交手段や消費者の消費スタイルの変化により閉店する店が増え、かつての賑わいは失われてしまった。

東温市は県都松山市と隣り合い、川内インターチェンジがあることにより、今後さらなる発展が見込まれている。住む人、訪れる人、働く人、すべてにとってが心地よい街を目指している。



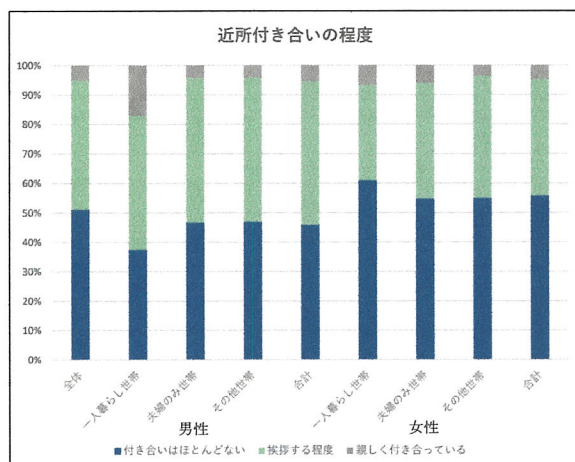
商店街の既存店舗



現状の課題

①地域コミュニティの希薄化

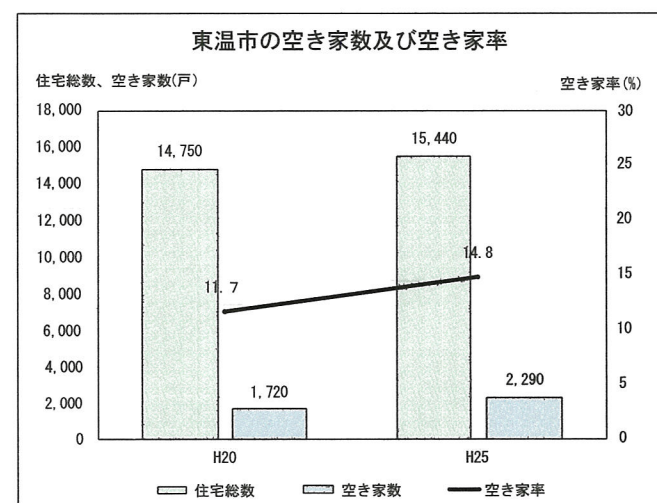
近年高齢者を中心に近所のコミュニティが薄れている。さらに新型コロナウイルスの影響もあり、交流の場が失われてしまった。コロナウイルス規制緩和を受け、今一度地域のコミュニティを復活させたい。



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」（平成22年）
（注）対象は60歳以上の男女

②空き家増加

人口減少や少子高齢化の急速な進展、社会的ニーズの変化により空き家が増加し、適切な管理されず長期間放置されている空き家も少なくない。



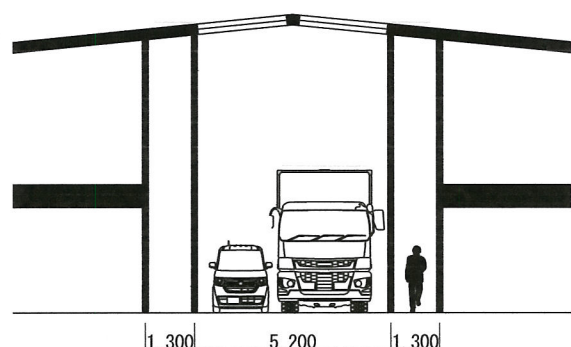
資料：総務省「住宅・土地統計調査」（各年）

その他の提案

◆アーケード

道幅が狭く車がすれ違う際に歩道に侵入している様子がよく見られ、通行の安全性が低いため、人通り減少に拍車をかけている。それに伴い道端で生まれる交流やコミュニティが失われつつある。

そこで歩道と車道の境に柱を設置し安全に歩ける道をつくる。両サイドの建築物と繋げて屋根をかけ、商店街をアーケード化し歩きたくなる道を作るとともに新たなコミュニティや交流を生む空間を生み出す。また屋根が設置されることにより、雨の日増加する駅利用者を商店街に呼び込み、待合室のような役割を担う。

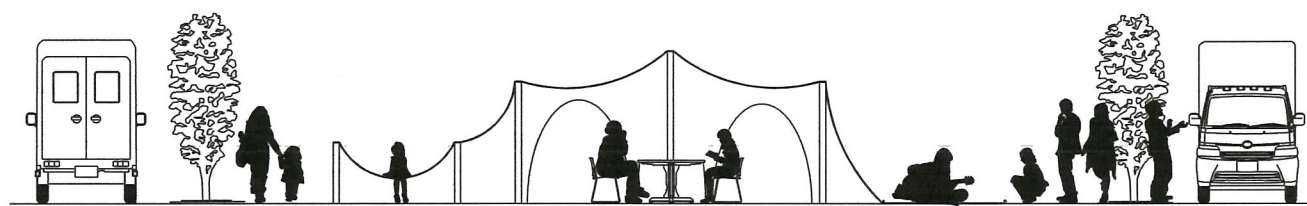


◆広場の整備

駐車場として利用されており、夜市や秋祭りなどの際には車や花壇を撤去し屋台が並ぶ広場になる。

駅と商店街をつなぐ中間領域としてこの広場を整備する。広場の中心にテント状の休憩スペースを設け、柱のつけ方によってレジャーシートやハンモックとして活用し、地域住民と電車を利用し訪れた人がくつろげる広場を作る。またイベントを通し、商店街の賑わい創出を図る。

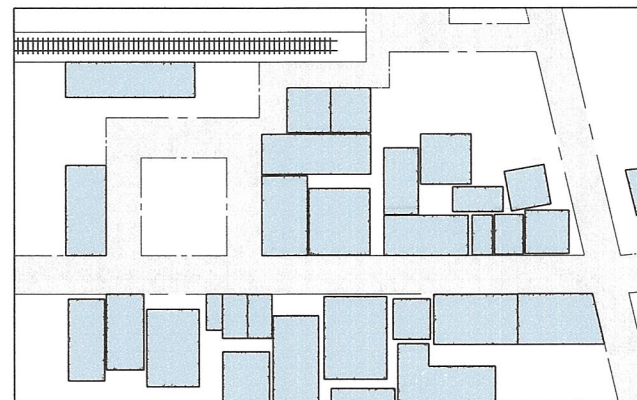
【イベント例】 ・フリーマーケット
・キッチンカーマルシェ



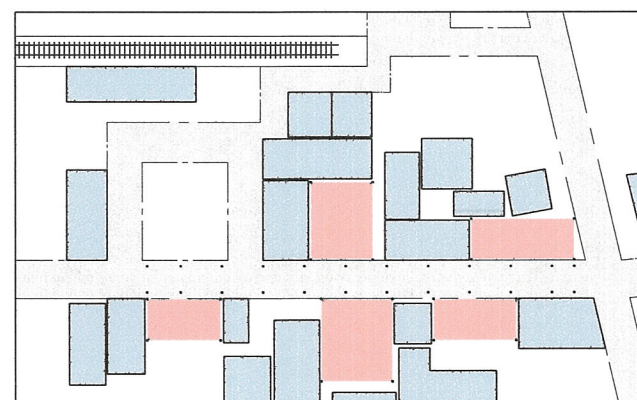
提案

◆商店街一体化

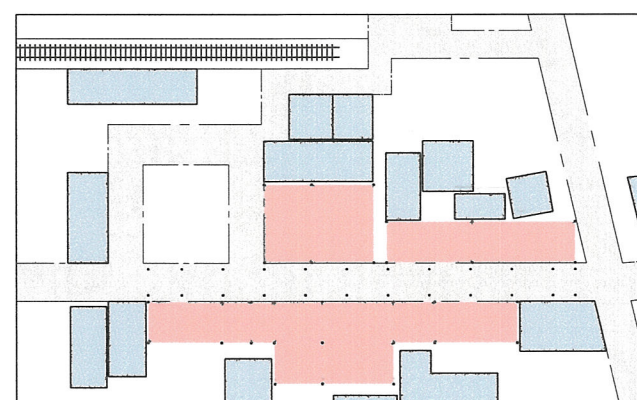
空き地や空き家を解体し、木造ラーメン工法の骨組みを設置。そこをフリースペースとして開放し、ワークショップなどの体験型イベントなどを行い。地域住民の新たなコミュニティの創出を図る。



常時店のテナントを募集し、応募が来たらフリースペースに新たに柱と壁を建て、店舗とする。
新たにできた店と既存店舗との間での客同士の交流が生まれる。



時がたち既存店舗が閉店をすると、解体して新たに骨組みを建て商店街と一体化する。



一体化した商店街は壁の仕切り方を変えることで様々な用途の店舗に順応する。
また一体感のある通りの景観は、東温市の新たな特徴のある景色となる。

◆3つのゾーン分け

利用者、ターゲットごとにゾーン分けを行い、それに基づいて計画する。

①駅利用者

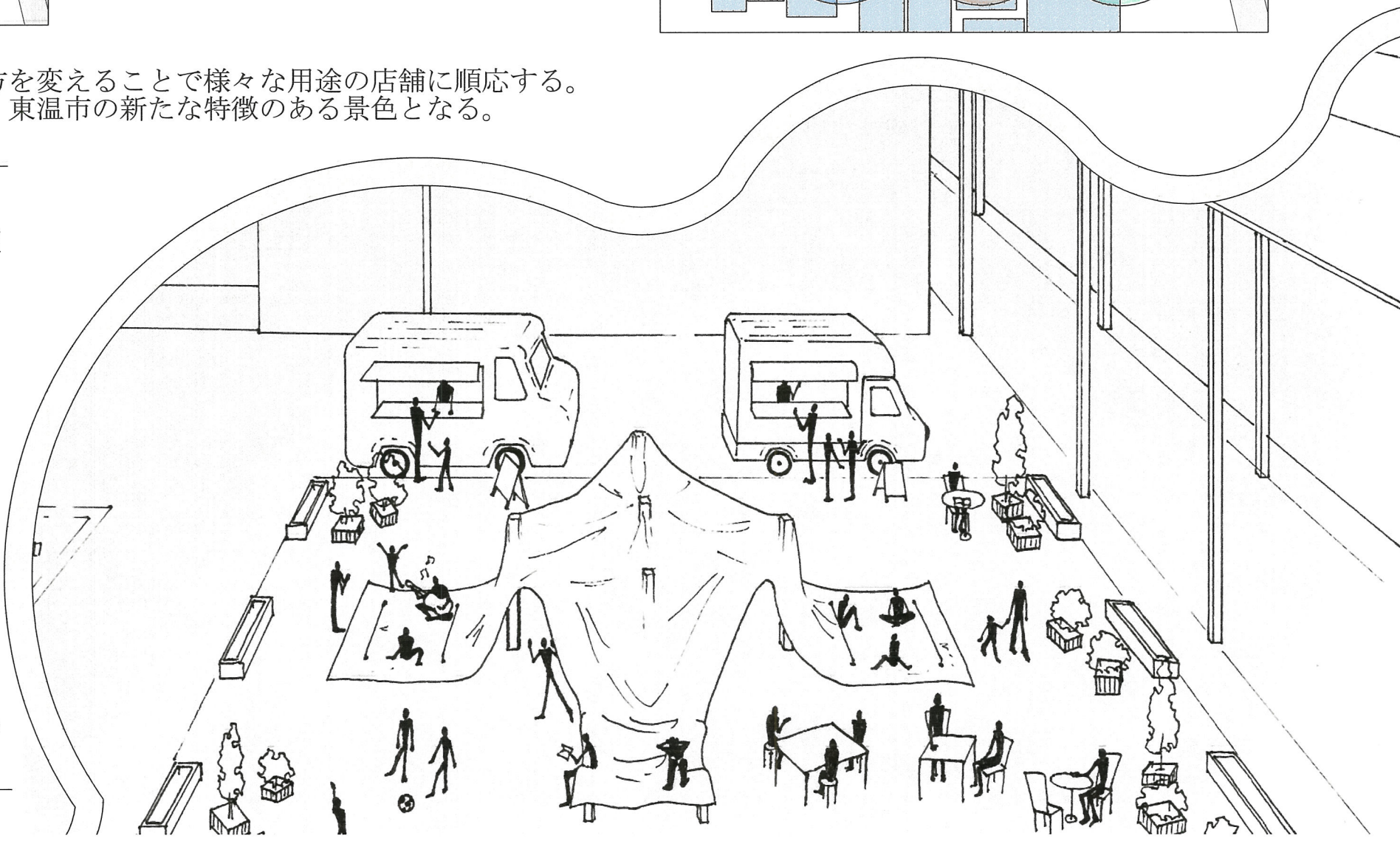
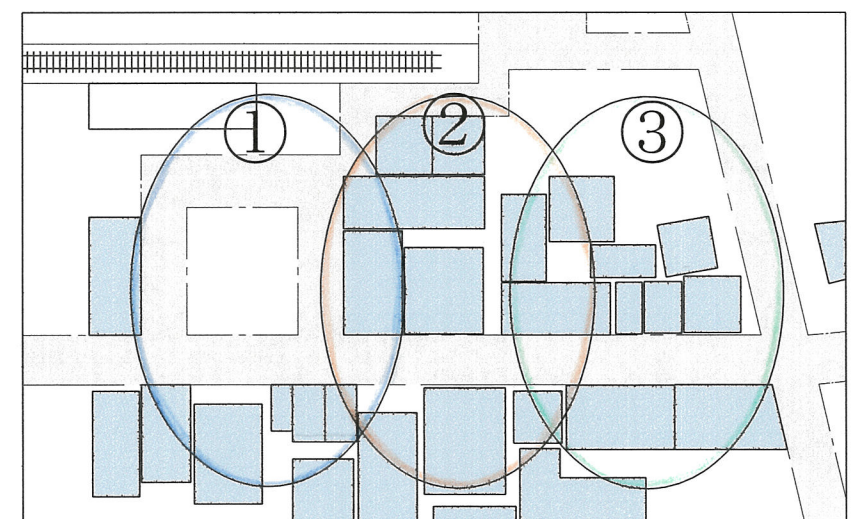
電車や迎えを待つ人が利用するスペースを作る。広場の整備や飲食スペースの設置を通して、ずっと待っていたくなるような居心地の良いスペースを作る。広場で定期的にイベントを行い東予方面からの訪問客を集め、交通手段として電車を利用する人を増加させ、再び東予方面への窓口としての賑わいを取り戻す。

②子供

子供が遊び、学べるスペースをつくり、子供たちの成育に貢献する商店街をつくる。ワークショップやイベントの参加を通じた子供たちの地域活動への参加の場をつくり、次を担う若者へ商店街の賑わいを伝え、若い世代中心に街づくりを行う意識を養う。

③地元住民

地元に住む人たちが買い物する商業施設をつくり、生活を豊かに便利にする。談笑したりくつろいだりできるスペースを設けそこで新たな交流を生む。交流やイベントを通じて文化や歴史の継承が行われることが狙い。



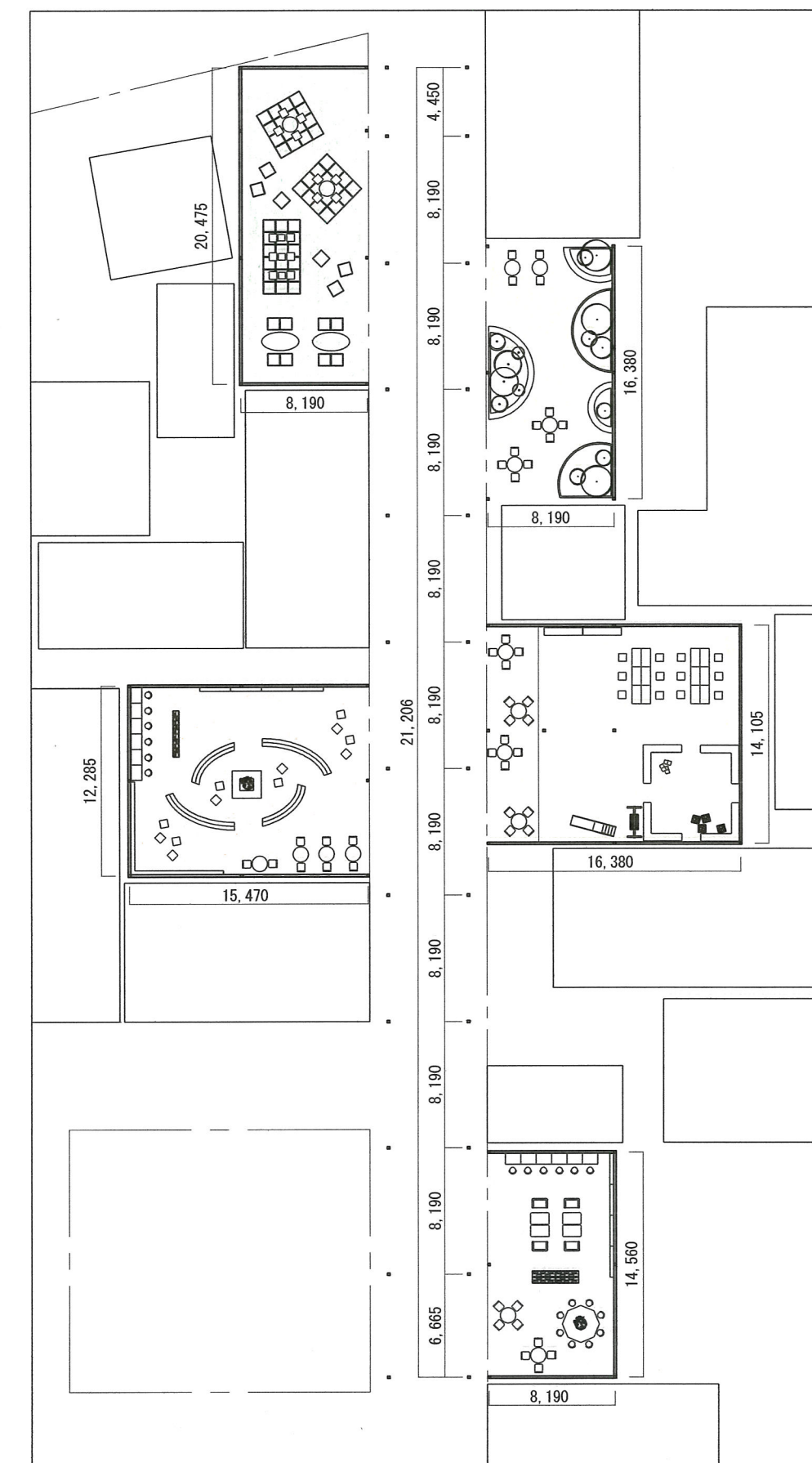
Episode 1 ～ひらいて～

放置されていた空き地や空き家を解体し柱と壁を建て、新たに空間をつくり地域住民や駅利用者向けにひらく。

商店街の既存店舗や地域の企業がワークショップやイベントを開き、東温市の魅力を体験できるイベントスペースとして活用し、地域コミュニティへの参加の場を設け、地元の文化や特徴に興味を持ってもらう機会をつくる。

子供にとっては遊び場に、高齢者にとっては新たな生きがいを見つける場になり、地域住民の生活をより豊かにする。

また東温市外にもイベントの宣伝を行い、実際に足を運んでもらって東温市にしかない魅力を感じてもらおうことで、訪れる価値のある街としてリピーターを獲得することが狙いだ。



配置図兼平面図 1/400

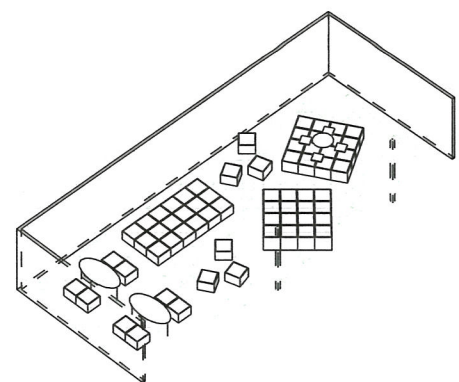
◆ひらいたスペース

畳スペース

地域の高齢者向けのスペースとしてひらいた。

動かせる畳が配置されており、利用者が自由にレイアウトして様々な用途で利用できる。

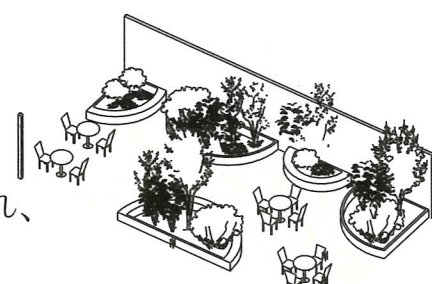
囲碁将棋倶楽部や俳句教室、その他イベントを通して高齢者と若者の交流を図る。



植物スペース

商店街の中で緑を感じられる空間としてひらいた。

育った花や木は商店街内に設置され、通りを華やかにする。

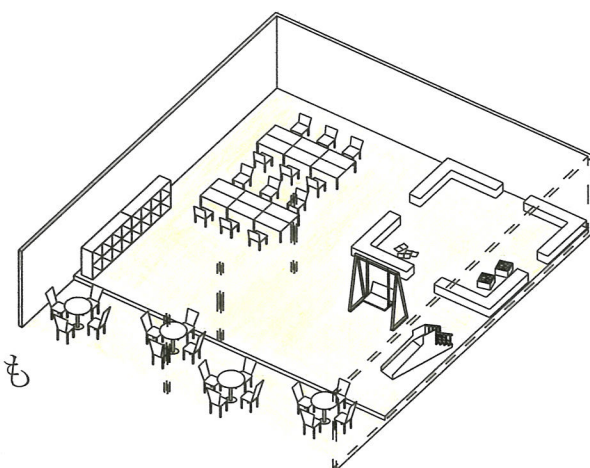


キッズスペース

子供が自由に出入りできる、遊び場としてひらいた。

友達を作ったり、一緒に遊んだり子供が自主的にコミュニティの輪を広げる能力を養うことがねらい。

また保護者同士の交流の場としても利用される。

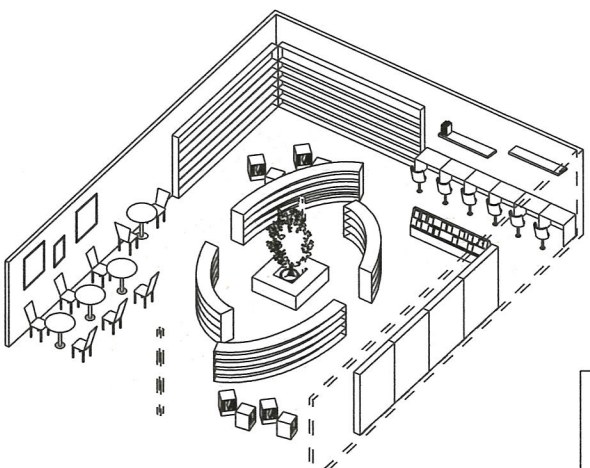


図書スペース

商店街の真ん中にある空き店舗を解体し、小さな図書スペースとしてひらいた。

忙しい日々から抜け出し一人で落ち着いたひと時を過ごしたい人におすすめの空間。

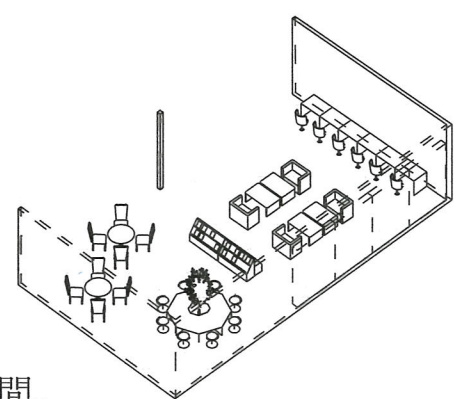
本を読んだり勉強したりするだけでなく、グループでの会話や学習にも使用され、利用者が主体的に学ぶ場となる。



待合スペース

駅の真正面にある空地を利用し、電車の発着や迎えを待つ待合スペースとしてひらいた。

出勤前のサラリーマンが駅前の珈琲店で買ったコーヒーを飲みながら雑誌を読む。雨の日に傘を忘れた高校生が迎えを待つ間勉強する。ちょっとした待ち時間を豊かにする空間。



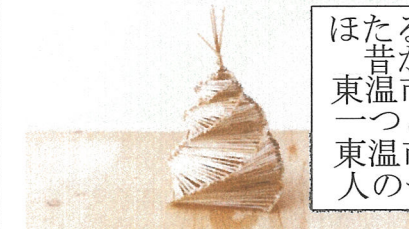
【東温市の特色を生かしたイベントの案】

- ・ヒンメリづくり



ヒンメリとは…
フィンランドの伝統的な装飾。別名「光のモビール」とも呼ばれる。東温市産の麦わらを使って制作される特産品の一つ。

- ・ほたるかごづくり



ほたるかごとは…
昔から米麦の生産が盛んな東温市で子供たちの手遊びの一つとしてつくられていた。東温市の土地の恵み、人のつながりが詰まった特産品。

- ・さくらひめのドライフラワーで雑貨づくり

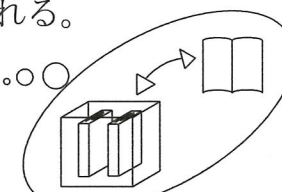


さくらひめとは…
東温市では古くから花き栽培が盛んなさくらひめの栽培、そのドライフラワーを使った小物の制作が行われている。

【地域住民向けのイベントの案】

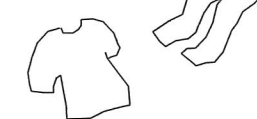
- ・古本市
読み終わった本、読まなくなった本から新たな出会いが生まれる。

古本の買取、販売
古本交換ボックスの配置



- ・子供服バザー
すぐに着れなくなってしまう子供服。捨てるより誰かに譲りたい。

子供服の販売
子供服交換会



【現存店舗を生かしたイベントの案】

- ・門店のアイスキャンディーづくり体験



- ・野間商店のとらまきづくり体験



Episode 2 ～またひらいて～

ひらいたスペースでのイベントや体験活動を通し、新たに様々な地域コミュニティが生まれ、イベントの日には地元住民やそれ以外の訪問客で賑わう様子が見られるようになった。

イベントに参加し、横河原商店街に店を開きたいという人が表れた。用途の自由な空間としてひらいていた場所に今度は店をひらく。

再びお店が立ち並び、横河原商店街の当初の

◆スペースの変化

畳スペース・植物スペース

→地域住民が買い物をする食料品店や小売店だけでなく、市外からの客もターゲットにした飲食店などが開かれる。

喫茶スペース

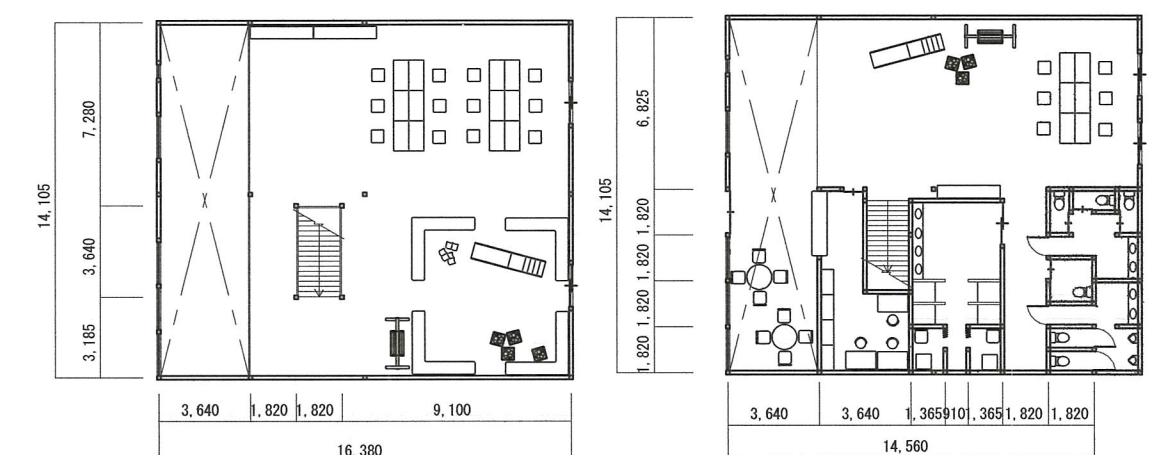
→駅利用者が利用できるよう、喫茶店やカフェが開かれる。解放感のある喫茶スペースから店舗が変わることによって、より落ち着ける空間となる。また、雑貨屋や服屋などの小売店が開かれ、ウィンドウショッピングで待ち時間を楽しくできる。

キッズスペース→児童館

いつの時代にも子供が集い遊べる場となるようにキッズスペースを児童館ヘリノベーションした。

一階はEpisode1と同じ子供の遊び場。二階は放課後児童クラブとして使用される。

子供にとって居心地の良い楽しい場所となり、若い世代が商店街に足を運ぶきっかけとなる。



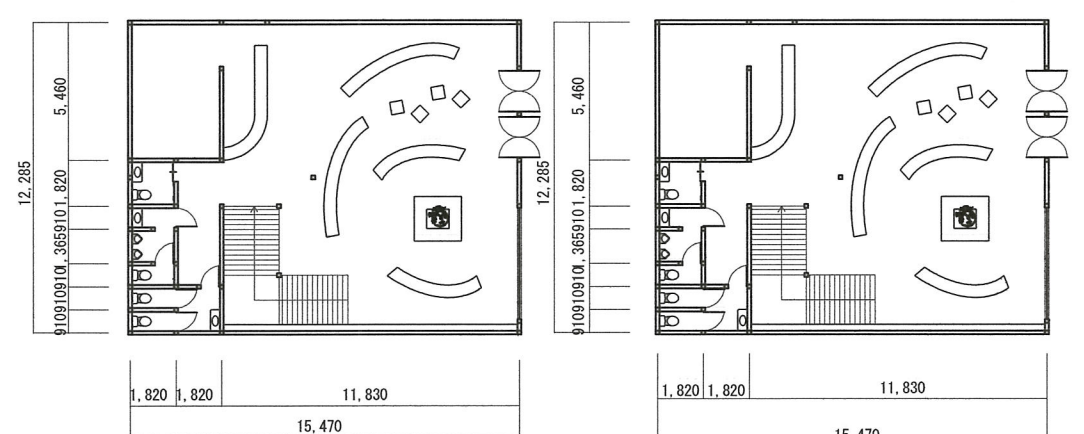
一階平面図 1/300

二階平面図 1/300

図書スペース→図書館

いつの時代にも落ち着きと安らぎをもたらすように、図書スペースをリノベーションし、図書館をひらいた。

二階ができたことにより本の種類が増え、利用者の幅が広がった。それにより新たな交流も生まれ、コミュニケーションを通じた学びあいの場となる



一階平面図 1/300

二階平面図 1/300

Episode 3 ～むすんで～

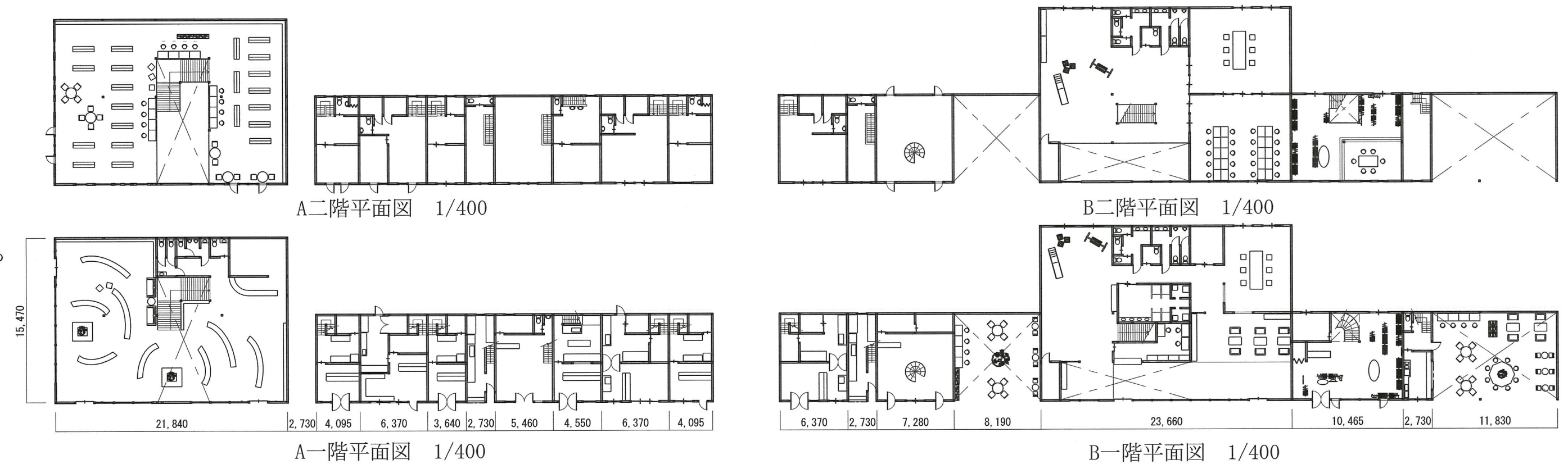
ずっと横河原商店街を守り続けてくれた現存店舗だが、需要が薄れ閉店をする時が来てしまった。

閉店した店を解体し、両サイドの店舗をむすぶように壁を建てる。長い間まとまりのなかった街が文字どおり一体化する。

一つの大きな建築物となった商店街の中で壁の仕切り方を変えながら様々な社会の変化とともに色々な用途にコンバージョンする。

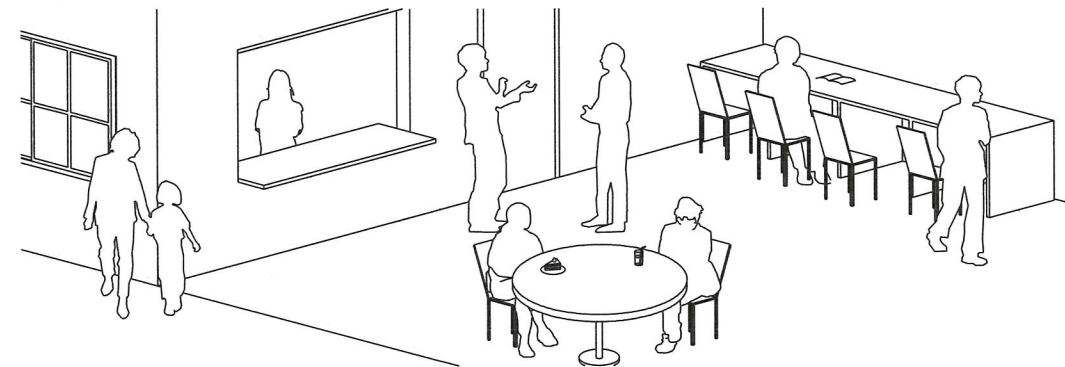
移り変わる用途の中で新たなコミュニティが生まれ続け、地域を結び続ける街の新たなカタチとなった。

たとえばこんなカタチになるかもしれない...



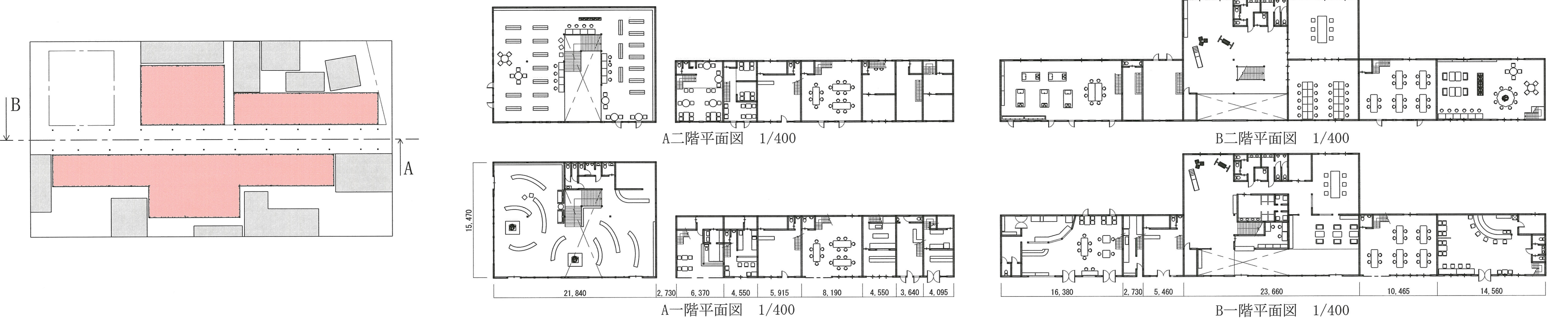
「テイクアウト商店街」

テイクアウト専門店が並ぶ商店街。店舗を商品購入の場として確立し、消費を店舗で行わない。それにより、フリースペースが消費の場として使用され人が集まる場となり、交流を生むきっかけをつくる。店内の滞在時間を短縮することによって、回転率を高め、売り上げや利益を向上させることが出来る。



フリースペース

テイクアウトした商品を飲食したり、図書館で借りた本を読んだり、勉強したりと様々な用途で使用され、誰でも気軽に立ち寄ることが出来るスペース。



「体験する商店街」

フリースペースにて、商店街の店がワークショップなどの体験型イベントを主催する。消費者は商品を購入すること以外にも「学び」や「出会い」を得ることができる。市民の新たな趣味や生きがいの創出し、「体験を買う」という消費の形態が生まれる。

【イベント例】

アウトドアショップ 「キャンプでできる料理講座」
パン屋 「東温市産のもち麦を使ったパンづくり」
お惣菜屋 「地元でとれた野菜でつくるおかずレシピ」
古着屋 「古着を染色でリメイク」
木製雑貨店 「ハンドメイド木製雑貨づくり」
花屋 「フラワーアレンジメント」

